

原作鹿脚色者
監督者
撮影者

帝キネ

時代映畫

茂木二郎氏

森本登良男氏

和志田誠氏

友禪職人三之助
兄弟子竹藏
下屋仁兵衛
妻おたつ

主要役割

市川百々之助

中村獅歌平氏

片岡好右衛門氏

尾崎靜子嬢氏

番頭久吉
目明文吉
捕手頭太田綱十郎
堀田黨首領天川吉十郎
勤王志士桂小五郎

喜多見

東真之助

片岡紅二

千葉清之助

片岡宣之郎氏

花木薫氏

喜多見順氏

高木秀一氏

市川海老三郎氏

市川登良男氏

監督

「鉛龍」帝キネ森本登良男氏作
品。主演者の市川百々之助氏



知る様になつた三之助は亘新太郎の紹介で同志に引合はされ長州萩へ赴き専心武術學問の修業を勵んだ。かくて幾月かの歳月は過ぎ天晴れ勤められたが常に佐幕派の横暴を憎み如何かしら自分も武術を修め天朝様の爲に盡りたいと考へて懇切に彼女にうるさく云ひ寄る番頭久七を振り切つて三之助に思ひを打明けた。お絹の熱情に感動された三之助は己が願望遂げし上はと相ぐく約束した。其後ふとした機會から勤王志士としめた。彼は彼を襲つた。大勢を相手に見事な腕の哥ええ捕手見せた三之助の姿を傍の斜亭から眺めたお絹は三之助の住居を聞く様頼んだ。竹藏は三之助の後を追ひ一度お絹達つて呉れと頼んだが大勢の手を握られお絹は仆れた。漸く其の激加物語の中久五郎の命で天川吉十郎の許へ密書を届けられた三之助は遂に出来た。役目を果して安心する。しかし争闘は開かれず、喜び若き命を終つた。松岡陽介マ大勢の捕吏に襲はれた。手を壊ええて天川の許へ密書を届ける。お絹は仆れた。漸く其の激加物語の中久五郎の命で天川吉十郎の許へ密書を届けられた三之助は遂に出来た。役目を果して安心する。